

30日 水曜

出エジプト

32:30 翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。それで今、私は主のところに行く。たぶんあなたがたの罪のために贖うことができるでしょう。」

32:31 そこでモーセは主のところに戻って、申し上げた。「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。」

32:32 今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら……。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」

32:33 すると主はモーセに仰せられた。「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう。」

32:34 しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に、民を導け。見よ。わたしの使いが、あなたの前に行く。わたしのさばきの日にわたしが彼らの罪をさばく。」

32:35 こうして、主は民を打たれた。アロンが造った子牛を彼らが礼拝したからである。

モーセは偶像礼拝の重大さを知っていました。民の罪がどれほど重いものであったをよく理解していたのです。しかし民をさばくことはしませんでした。むしろ彼らをとりなしたのです。モーセのこれまでの努力を無にするようなことであっても、自分のことよりも民を思いやる気持ちが強かったのです。

それは義務からではなく、人々への愛の思いからでした。「どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」とまで言ったのです。これはイエス様の愛のひながたでもあります。



そしてこのようなモーセだからこそ、その後の働きができたのです。神様の使命は愛によって全うできるということです。私たちも、状況や立場がどうであっても、愛を動機にして考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

